NO.35
月刊
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ 御手当帳 秋谷家侍帳

御用人 百三十石 二百三十石 二百三十石 二百三十石 五十人扶持 百三十石 百三十石 百三十石

〃〃〃〃〃外様〃〃〃〃〃

〃〃〃

れる日給である。何日とは文目にして一文目は今の価格にして一銭の十分の一に当る日給である。

当時の米は一升大体二銭から二銭五厘でいまの米価に比較すると、ざつと五千分の一になる勘定である。

△奥御殿は明治の初年に岡山市の白石三二九番地、もと白石村の大庄屋であつた深井文平が殖産のために母屋を燐掃はれたので、一時撫川の大庄屋雄波純一郎のもとへ避難していたが明治八年にその子再可（カズヨシ）がこの建物全部を買ひ受けて現地へ再建したのである。

深井文平―再可―源六―儀一郎が当主である。

△藩邸の庭園は白石の今保七五五番地屋号を糸屋という地方の豪商であつた大賀正為が買ひ受けてその庭園に移したのである。樹木は姿容をみえているが配石は昔そのまゝである。

大賀幸吉―正為―正義―善十郎が当主である。

△藩邸の中心になつている弁天島をめぐる池を丸池という。先年整理の捨場となり一部を完全に埋め立ててしまつた。他に適当な場所が見出される筈である。弁天島附近は現状を維持し吉備町の文化財として永久に保存すべき唯一の場所ではなかろうか。とぎすました現実のきびしい世相とはいうものの御士を愛する番はしさへ文化の教養）を少しでもあらわしたいものである。

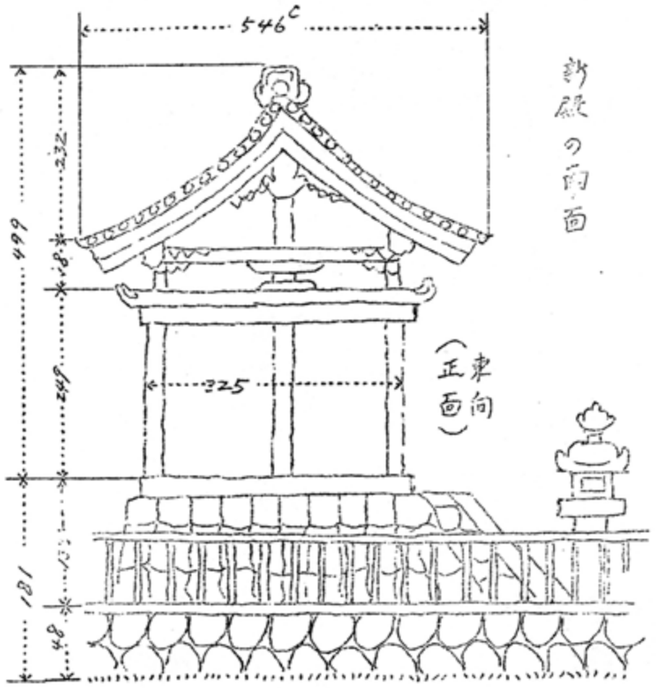
△藩邸の東北に鎮守清山神社がある。我国では昔から国家的にも個人的にも守護神として神仏を祭祀する習慣がある。そしてその位置は家相上鬼門の方角が最もよいときされている。その例は京都の御所に対して比叡山延暦寺の如く、鎌倉幕府に対して鶴岡八幡宮の如く庭瀬藩邸に対しても清山神社の如く護国の神として尊崇したのである。鬼門とは真北から真東の間を子丑寅の三つに分ける。暦によると丑は「不浄あれば家業不振、病人絶えず井戸あれば変化の凶相、カマあれば口舌の相」とあり。艮は「神仏を祀れば狂人不具者出でず、家宅を張れば病人絶たず、不浄を忌む、玄関口階段口あれば万雑交々到る」。寅は「不浄あれば主人中気手足引つる病あり、又相続人に災いあるべし、神仏を祀らず大なる事あるは他人相続の相」。とあつてこの方角を家相上最も重要視し、万事を忌み避けるのである。又その反対に当る西南は裏鬼門

と呼び、未、坤、申の間も同様暦の上ではきびしい制限が加へられているのである。この習慣は現在でも行はれ家屋の新築或は改造などには将来の繁栄を願つて必ず陰陽家に設計の図面を示して可否を問ふているようである。科学的のこととは別に。

△清山神社の神殿には菅昌、菅矩父子の時代の遺品が殆んど保存せられている。これは奈良の正倉院の御物が聖武天皇時代の御遺物と等しいものである。神殿は外部を厚い白壁にて塗りつくし室摩を兼収た一見土蔵造りの建築様式である。堀模は小さいがその特徴は神殿にみる建物である。

城跡にはただこの神社と周囲の石垣を遺し大部分は田畑になつているが、この由緒ある城跡を御士の人さえも知らない有様である。心なき人によつて崩されいつしか埋滅してゆくのではないかと憂へるのである。大方の士に俟つてその遺蹟に記念碑を建て永遠に保存すべきものと考へられる。

（おわり）



新殿の南面

セルフサービスの店
スーパー
大丸百貨
岡山市大供十字路

高級手麺
桜の備吉
電話吉備一七二
所麺製木赤　町備吉郡窪都